０７／１１／１８　　礼拝メッセージ　　近藤修司　牧師

主　　題：主イエスの祈り　４
聖書箇所：ヨハネの福音書　１７章１７－１９節

私たちは「主の祈り」を見ています。最初にイエスが祈られた祈りは、彼が日々どのようなことを望みながらこの地上を歩んでおられたのか、そのことを私たちに教えてくれます。神のみこころを行なうこと、それがイエスの願いであり、そのように１００％完璧にイエスは生きられました。同時に、イエス･キリストは側にいた弟子たちのために祈られました。彼らを励まし、彼らを慰め力づけたのです。当時の弟子たちもその祈りを聞きながら、弟子とされたことの喜びに今一度思いを馳せることができたでしょう。また、同時に、主に対しての感謝をささげることができたでしょう。また、その祈りを聞いて彼らは大きな励ましを得たはずです。私が罪から守られるように、神の御手によって永遠に守られるように、私の心が主の喜びによっていつも満ち溢れるように、そして、私たちの敵から守られるようにと、行き届いた配慮に満ちたイエスの祈りは、それを聞いていた弟子たちに大きな励ましを与えたことは間違いありません。そして、それは今の私たちにとっても大きな励ましです。今、私たちはルターの讃美歌を聞きました（今日の礼拝でのオルガンによる特別賛美、讃美歌２６７「神はわがやぐら」)。何百年に渡って、もちろん、その前もそうですが、多くのクリスチャンたちが主のみことばに立ち、主に信頼をおいて戦い続けて来ました。そのようなことをこの讃美歌も私たちに訴えていました。心配しなくてもいい、神があなたのやぐらだから、神があなたを支えてくださるからと。私たちクリスチャンはどんなに守られているか、この全能なる神の力強い御手によって守られている、一人ひとりが守られている、決して神は私たちを手放すことなく見捨てることがないと。ダビデの証を見てください。詩篇２７：１－３**「:1 主は、私の光、私の救い。だれを私は恐れよう。主は、私のいのちのとりで。だれを私はこわがろう。**
:2 悪を行なう者が私の肉を食らおうと、私に襲いかかったとき、私の仇、私の敵、彼らはつまずき、倒れた。
:3 たとい、私に向かって陣営が張られても、私の心は恐れない。たとい、戦いが私に向かって起こっても、それにも、私は動じない。」、もしかすると、私たちに欠けているのは、その真理をすぐに忘れてしまうということと、このすばらしい神の恵みに対しての感謝が余りにもなさ過ぎるということです。神の恵みは私たちに十分過ぎるほど与えられています。しかし、私たちはそのことを覚えてもいないし、それにふさわしく感謝もしていないのです。ペテロはＩペテロ１：５で神から与えられているその守りのすばらしさについて、このように教えています。**「あなたがたは、信仰により、神の御力によって守られており、終わりのときに現わされるように用意されている救いをいただくのです。」**と、ペテロはこの神の守りを確信していました。私たち信仰者は神の御力によって守られていると言います。この**「守られており」**ということば、これは「見守る、保護する」という意味があります。特に、これは軍隊用語として軍隊で使われることばです。兵隊によって保護される様子を表わしているのです。守備隊が外部からの攻撃に対して守ってくれている様子、それを描くことができると思いますが、そのようなことを言わんとしているのです。しかも、それは人間によって守られているのではなく、全能なる神によって私たちが守られていると、そのことをペテロは教えたいのです。しかも、このことばを彼は現在形の受身で語っているということは、ずっと守られているし、ずっと神があなたを守り続けているということです。先ほども言ったように、これだけ取ってみても私たちは感謝しなければいけません。でも、現実は、私たちの日々の生活の忙しさの中で神に感謝することはありません。もしかすると、神への感謝よりも神への愚痴が多いかもしれません。忘れてはならないのです、神の恵みを。神がどんなことを私たちのためにしてくださったのか忘れてはならないのです。

これらのことを見て来ました。罪から守ってくださる、永遠の守りがあるし心が守られる、敵から守られると、そういうことをイエスは祈られました。そして、五つ目に今日私たちが見るのは、ヨハネの福音書１７章の１７－１９節のところです。

２．弟子たちのための祈り

（５）弟子たちが神から与えられた使命を果たすように　　１７－１９節

いろいろなことから守られて行くようにと今まで見て来ましたが、それだけではありません。弟子たちがわたしの使命を果たすようにと、イエスは祈られています。繰り返しますが、私たちクリスチャンがしっかり覚えなければいけないことは、私たちがイエスの恵みによって救われたのなら、私たちには神から使命が与えられているということです。なぜなら、クリスチャンは神のために選ばれた者であり、神のために用いられる者です。そのことがこのイエスの祈りの中に教えられていることです。

①救われた者は神に選び出された者　　１７節

１７節に**「真理によって彼らを聖め別ってください。あなたのみことばは真理です。」**とありますが、今見たいのは先ず**「聖め別ってください」**というこのことばの意味です。イエスは何を教えようとされたのでしょう？罪からきよめられて救われることと思う人がいるかもしれもせん。でも、ここでは救いのことを言われたのではなく、信者である私たちの忠実な歩みに関して、私たちのクリスチャン生活に関して、あなたの信仰者としての歩みに関して、イエスはこのように語り祈られたのです。というのは、この**「聖め別つ」**ということばを見て行くとき、このことばの意味が私たちにそのことを教えてくれます。というのは、このことばは「異なった、区別された」というのが基本的な意味です。ある目的のために聖別される、分けられるということです。神のために選び分けられた者、神によって、また、神のためにこの世から選び分けられた人々、そういう意味です。だから、クリスチャンなのです。クリスチャンというのは、神がこの世から神ご自身の目的のために選んで、ご自分の目的のために用いようとされている人々です。ですから、今見て来たように、私たちはこの世のまだイエスを信じていない人々と全く違う生き方をして当たり前なのです。なぜなら、私たちは異なる者なのです。この世の人々とは区別されるのです。同じ生き方をしているなら、異なった生き方だと区別されるなどあり得ないことです。しかし、私たちは神によって**「聖め別たれた」**者、区別された者、異なった者となったのです。だから、私たちの生き方を見て人々は思うのです、変わった人だ、不思議な人だと。なぜなら、世の中の流れに従って行こうとしないからです。また、私たちは神の目的やみこころに沿って生きて行こうとする者です。なぜなら、私たちは神のために選ばれたからです。世の中とは異なる者であり、神の目的に沿って生きる者、それが信仰者なのです。その意味がこのことばの中に含まれているのです。だから、本当のクリスチャンは心も思いも考えもことばも行ないも主に喜ばれたいと望む者です。悲しくなることは、そのように強く願っていても私たちは失敗の連続です。でも、私たちの心の中にはそのように生きて神に喜んでいただきたい、みことばに従って行きたい、みこころに沿って生きて行きたいという願いがあり、それを神からいただいたのです。ですから、このみことばを見たとき**「彼らを聖め別ってください」**と、彼らが世の中の人々と区別されて異なる生き方をして、神のために彼らが生きて行くように、神のみこころに沿って生きて行くようにとそのようにイエスが祈られたということは、どれほど神がその生き方を私たちに望んでおられるのかということです。私たちはそのことを覚えなければいけません。神はあなたが神のみこころに忠実に生きる者になることを望んでおられるのです。

そのことは１９節のみことばも明らかにします。**「わたしは、彼らのため、わたし自身を聖め別ちます。」**と。おもしろいことを言われました。もし、これが救いであるとするなら、イエスは救われる必要があるのかということになります。罪からきよめられるとするなら、ではイエスは罪を犯していたのかということになるわけで、そのようなことはなく、今すでに見て来たように、イエスが言われていることは、この世の人々と異なる生き方をし、そして、父が定められた目的、みこころに対して忠実にそれに従い続けて行くということです。イエスのこの１９節の祈り**「わたし自身を聖め別ちます。」**は、わたしもこれまでもそうだったけれど、これからも神のみこころに従って忠実に歩んで行きますと、そのことを言われたのです。そして、イエスがそのように生きたということは繰り返し話しています。ヨハネの福音書１０：３６－３８でも**「『わたしは神の子である。』とわたしが言ったからといって、どうしてあなたがたは、父が、聖であることを示して世に遣わした者について、『神を冒涜している。』と言うのですか。:37 もしわたしが、わたしの父のみわざを行なっていないのなら、わたしを信じないでいなさい。:38 しかし、もし行なっているなら、たといわたしの言うことが信じられなくても、わざを信用しなさい。それは、父がわたしにおられ、わたしが父にいることを、あなたがたが悟り、また知るためです。」**とイエスは話されています。つまり、イエスはイエス･キリストに暴言を吐く人々に対して「わたしの行ないを見てみなさい、わたしは今まで神のみこころに従って生きて来た、もしそうでないなら信じる必要はない、でも、わたしの行ないを見たらわたしの言っていたことが真実であることが明白だ」と。ですから、イエスは人々の前ではっきりとご自分は父なる神のみこころに従順に従って来たということを話されたのです。そして、皆さんもよくご存じのように、イエスはその後十字架にまで従って行かれた、父なる神のみこころに死にまで従って行かれたのです。ですから、１９節の続きにこのようにあります。**「彼ら自身も真理によって聖め別たれるためです。」**と、つまり、イエス･キリストのそのような全くみこころに従い続けた生き方は、私たち信者にとっての大きな模範なのです。私たちはこのイエス･キリストが歩まれたように、その信仰の歩みに倣って歩んで行こうとするのです。ここにおられるイエス･キリストを信じておられる皆さん一人ひとりは、間違いなく、より主のお役に立つ者になりたい、主のご用により用いていただきたいという願いをもっておられるはずです。もっと忠実な者になって行きたいと。そのためには私たちも喜んでイエスが為さったように、自ら進んで主のみこころに忠実に従い続けて行くことが必要です。そのように歩み続けて行くことが必要です。そのために不可欠なものは何か、みことばが教えてくれます。それは聖書のみことばであると教えます。１７節には**「真理によって彼らを」**と言います。あなたのみことばは真理である、

その真理が何かを教えているのです。１９節にも**「彼ら自身も真理によって聖め別たれるためです。」**と、つまり、神のみことばのことを言っているのです。なぜ、みことばが必要なのでしょう？なぜ、聖書が必要なのか、なぜ、私たちがみこころに従って行くために聖書が必要なのか、この聖書がみこころを示しているからです。聖書に神のみこころが記されているからです。ですから、「夢を見て神から啓示を受けた」ということは信じないでください。今はそのような方法で神は働かれません。神は聖書のおことばを使って私たちに導きを与えられるのです。私たちがしようとすることはみことばに沿ったものであるはずです。みこころというのはこのみことばと必ず一致するものです。罪はどんな罪でも罪です。みことばがそのように言うからです。神がこのようにしなさいと言われることは、どんな言い訳をしても正しいことです。みことばは私たちに神のみこころは何かを教えてくれます。だから、みことばが必要であり、みことばに従って行くことによって私たちはより主が歩まれたように、みこころに忠実な者になって行くのです。そして、あなたがみことばを学びその真理を生活に適用するなら、あなたの生き方は変わって来るのです。あなた自身が変えられて行くのです。憶えておられますか？**「:16 聖書はすべて、神の霊感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練とのために有益です。:17 それは、神の人が、すべての良い働きのためにふさわしい十分に整えられた者となるためです。」**（Ⅱテモテ３：１６－１７）、みことばによって私たちは成長するのです。みことばによって変わって行くのです。外側の行動ではなく内側が変えられて行くのです。そして、それが外側へと現われ出て来るのです。ですから、イエスがヨハネ１７：１７－１９で祈られたことは、あなたは神によって神のために選ばれた者だということです。同時に、

②救われた者は神に用いられる者　　１８節

１８節を見てください。**「あなたがわたしを世に遣わされたように、わたしも彼らを世に遣わしました。」**とあります。イエスはこの弟子たちを派遣されたのです。彼らに使命をお与えになったのです。そこには目的がありました。というのは、この１８節を見たとき**「あなたがわたしを世に遣わされたように」**とあります。ちょうど、父なる神が子なるイエス･キリストをこの地上に送られたように、今度はイエスが弟子たちを派遣して行かれたと言うのです。父なる神は目的をもってイエス･キリストをこの世に送りました。父なる神はメッセージをもってイエス･キリストをこの地上に送られました。それと同じように、神によって遣わされて行くクリスチャン一人ひとりは、目的をもちメッセージをもって出て行くのです。イエスがそうであったように。パウロはこんなことを言っています。**「けれども、私が自分の走るべき行程を走り尽くし、主イエスから受けた、神の恵みの福音をあかしする任務を果たし終えることができるなら、私のいのちは少しも惜しいとは思いません。」**と。先ほどのルターの讃美歌もそのことを私たちに教えてくれました。いのちを取られようと望んだことは神に従って行くことだと、信仰者はそのように変えられて行くのです。私には神から大切な使命が与えられている、務めが与えられている、そのために神は私を救ってくださり、そのために私は生かされている、だから、私はそのことをいのちがけでやって行くと、それが彼の証でした。私たちもしっかり覚えなければいけないことは、神が遣わされたのはあのパウロやペテロやヨハネやヤコブたちではなかったということです。今のあなたも同じように神は遣わしておられます。神はあなたを遣わしたとみことばは教えているのです。目的をもってメッセージをもって神はあなたを遣わされたのです。それはちょうどイエス･キリストが為さったように、この主なる神の偉大さを世の人々に明らかにするため、宣べ伝えるためです。神の栄光を現わすこと、まさにその通りです。そして、そのことを「ことば」をもって「行ない」をもって行ないをもって行なうのです。どちらかと言うと後の方が難しいです。もちろん、先のことも勇気が要ります。しかし、みことばを見るかぎり、イエス･キリストがこの世に目的をもってメッセージを携えてやって来られたように、神はあなたをこの世に遣わしてくださり、あなたがこのすばらしい主の証を為すことを神は望んでおられるのです。私たちが忘れてはならないこと、それは、まだ救われていない人々は主イエス･キリストを見ることができませんが、私たちキリスト者を通して彼らは主を見ることができるのです。考えたことがありますか？世の人々は私たちを通してイエス･キリストを見るのです。私たちはそのために救われたと言うのです。私たちがこの救いの恵みにあずかったのは、この主を明らかにするためであると。

今、私たちが少し考えてみたいこと、私たちはこの世の人々にどのような証を立てているのかということです。この質問に答えてください。「あなたはどのような主を世の人々に明らかにしておられますか？」、この質問の意味を説明します。私たちは主が私たちを生まれ変わらせてくださる方であると信じています。確かに、みことばがそのように言っているし、そのように私たちは経験しています。そうでなければ救われていないからです。では、そのことを私たちはどのようにしてこの世に明らかにして行きますか？もし、私たちの生き方が変わっていなければ人々はどうしてそのことを信じることができるでしょう？ですから、私たちはこの世の人々にこの主が私たちを生まれ変わらせてくださると言うのなら、生まれ変わる前、イエス･キリストを信じて救われる前と信じた後とのその生き方が異なっていて当然ではないですか？その異なった生き方が世の人々に対する証なのです。神が私を生まれ変わらせてく

ださったと。どうでしょう皆さん、何かエックスキューズ、言い訳を言っていませんか？「私を見てはいけません、私を見るとつまずくから、イエスを見なさい」と、確かに、そこには真理があります。でも、偽りもあります。パウロはそのように言いませんでした、「私を見なさい、そして、主も見なさい」と。私たちクリスチャンは決して罪赦されたからどのように生きてもいいなどと聖書は教えていません。私たちはこの世にあって大きな使命をいただいたのです。世の中の人々に私たちの主がどんなに偉大なお方であるのかを明らかにするのです。もし、私たちがこの主によって生まれ変わるのだと言うなら、私たちは生まれ変わっていなければいけません。世の人々はそのことをしっかり見ます。どうでしょう？あなたの生き方は変わっていますか？いや、変わろうとしていますか？そのような願いがありますか？神が生まれ変わらせてくださったのなら、そのような思いをもって私たちは生きるはずです。罪によってそのような願いが埋もれていませんか？神さま、私を変えて行ってくださいと、私たちはまだその途上にあります。でも、明らかなことは神が生まれ変わらせてくださったのなら、私たちは新しい者としての生き方が始まっているはずです。それを人々が見るときに、確かに、この人の言っていることは真実だと言えるのです。私たちはこのように言います。神は揺るがない希望を私たちに与えてくださるお方だと、確かに聖書はそう言っています。でも、問題は私たちがどんなときにも希望をもち動揺しない生き方をしているかどうかです。動揺することは私たちの周りにたくさんあります。その中であなたはどのように生きていますか？神はきよいお方だと私たちは言います。その通りです。では、あなたは罪や汚れから離れて規則に従って正しく生きておられますか？神は愛のお方だと私たちは言います。では、あなたはすべての人に対して親切で彼らのために喜んで犠牲を払う生き方をしているかどうかです。神は罪から救ってくださるお方だと言います。その通りです。では、赦された者として人を赦す生き方を歩んでいますか？また、赦されたことを感謝する生き方をあなたは歩んでいますか？主は再臨されると言います。その通りです。みことばがそのように言っています。では、あなたは再臨を日々待望しているために、この日を、今日を無駄にしない生き方を歩んでいますか？主は本当の生きる目的を与えてくださるお方だと、その通りです。では、その目的に沿ってあなたは生きていますか？

皆さん、私たちが考えなければいけないこと、自分に問いかけなければいけないことは、私はどんな主をこの世に明らかにしているかです。私は自分のことばだけでなく生き方をもって、私の主はこんなにすばらしいお方だということを明らかにしているかどうかです。非常に大きな責任があると思いませんか？同時に、非常に大きな助けが必要だと思いませんか？なぜなら、今見て来たことは確かにその通りだけれど、皆気付くことは自分の力では到底できないことだからです。しかし、問題は私はどのような主を人々に明らかにしているのか、そのことを考えてみなければいけません。また、どうでしょう？あなたのうちにおられる主は、人々の前にはっきり見えているでしょうか？人々はあなたのうちにいる主をはっきり見ていますか？あなたの家族はどうですか？親族は？友だちたちは？近所の人たちは？あなたの職場の人たちは？また、学校の人たちは？もし、私たちがこのイエス･キリストこそが真の神であり、この聖書の教える神こそが真唯一の神であることを知ってもらうためには、あなたがどのように生きるかがカギなのです。「みことばに喜んで従うことによってのみ立証される、神への真実な愛において成長し、主の恵みによって日々キリストに似た者へと変えられて行くことにより、私たちは益々主の栄光を現わす者となります。」、あなたの愛は成長していますか？その愛は「神さま、愛しています」と歌うことではありません。神を愛しているという人は神のみことばに従う人です。それ以外の愛を私たちがいくら言っても、神はそれを見て「違う」と言われます。そして、救われたならその瞬間から神は私たちのうちにある働きを始めて行かれます。キリストに似た者へと変えて行こうとする、なぜなら、それによってうちにいる真の神が私たちを通して世の人々に明らかにされて行くからです。ですから、私たちがそのように歩んでいないのなら、私たちはこの世に遣わされている使命を果たしていないことになると思いませんか？神は私たちを救ってくださりこの世に送ってくださり、それでは好きに楽しく生きなさいなどとどこにも教えていません。私たちを救ってこの世に送ってくださった目的は、この神のすばらしさを世の人々に明らかにするためです。その使命をあなたは果たしているかどうかです。もし、私たちが今見て来たように、そのような歩みをするなら、まさにそのとき私たちは地の塩であり世の光となったということが言えるのです。なぜなら、**「このように、あなたがたの光を人々の前で輝かせ、人々があなたがたの良い行ないを見て、天におられるあなたがたの父をあがめるようにしなさい。」**（マタイ５：１６）、人々が見るのはあなたの良い行ないだと言うからです。もちろん、私たちのことばも必要です。信仰は聞くことから始まることは確かです。でも、人々が一番影響を受けるのはあなたがどのように生きているのかです。あなたの良い働きをもって父なる神が崇められて行く、なぜなら、そのときに神の栄光が現わされているからです。

私たち信仰者は主である神によってこの世から選び出された者であること、そして、主である神はこのような私をまだ救われていないこの世の人々に、この主の偉大さ、すばらしさを証するために用いて

くださるのだということを、私たちは決して決して忘れてはならないのです。私たちは何度もこのようなチャレンジをみことばから受けて来ました。みことばを見るたびにこのように生きて行きなさい、神に従って行きなさい、神はあなたを用いるのだと。でも、もしかするとあなたは何度聞いても同じところに戻ったかもしれもせん、でも、私には無理です、もう少し若かったら、もう少し元気だったら、もう少し時間があったら、もう少し教育があったら、もう少し…と。バークレーという神学者はこのことば、**「聖め別つ」**についてこのように説明しています。「このことばには二つの概念が含まれている。一つは（今私たちが見て来たように）特別な任務のために別にして置くことを意味する。二つ目は、その職務に不可欠な精神や信条や性格の特質をある人に備えさせることをも意味している。もし、ある人が神に仕えるとするなら、その人は自分の中に神の徳と神の知恵を宿していなければならない。聖なる神に仕えようとする者は彼自身も聖くなければならない。だから、神は人をご自分の特別な職務に選び、彼をそのために区別されるだけではない、同時に、神は彼にその奉仕を遂行するのに必要な特質を備えさせるのである。私たちは常に神が私たちを選び、その特別な職務のために私たちを選び、その特別な職務のために私たちを聖別されたということを覚えていなければならない。その特別な奉仕とは、私たち自身がまず神を愛し、神に従うこと、しかる後に、他人が同じことをするように導くことである。そして、私たちはいつも次のことを覚えていなければならない。神は私たちを孤立させて自分の力だけでそのような重大な職務と責任を遂行されようとしているのではなく、もし私たちさえ自分の人生を御手にゆだねようとするなら、ご自分の恵みによって私たちをその職務へと備えてくださるのである。」。つまり、神は私たちを召すだけではない、その働きに神が用いてくださるために必要を備えてくれるというのです。言い訳できません。なぜなら、このように今あなたが生きているということは、神はまだあなたに今日という日をくださって、今日あなたが神に仕えることができることをご存じだからです。問題は、私たちがそれをしようとするかどうかです。そのようにして主に従って行くかどうかです。

神がこのような私たちを使うということは非常なミステリーです。驚きです。そう思われませんか？なぜ、神はこんな私たちのような者をお使いになるのでしょう？スポーツの試合で、一番大切なところ、このシュートを決めるなら勝つ、決めなければ負けてしまうというときに、私たちは決める確率の高い人を出します。神の栄光を現わす確率の高い人を神は使われたらいいのに、私たちのように遥かに確率の低い者を使ってくださるのです。驚きではありませんか？神さま、私よりあの人の方が絶対いいですよと、そのように言える人がたくさんいます。でも事実は、神はあなたを選んであなたを神の目的のために使ってくれると言うのです。そのためにあなたはこの世に送り出されているのだと。私たちはこの神に感謝してこの方を心から愛して、今日、主に用いていただくために自らをささげて行くことです。皆さん、そのように多くの人々は生きたのです。

今年の１０月、私たち（近藤･岡田両牧師）はニューヨークから北に上がってニューヘーブンという所を通っていました。そこではいろいろな人の名前が浮かんできましたが、その中の一人はウイリアム･ボーデンです。私たちもその名前はよく知っています。アイスクリームにレディーボーデンというブランド名があります。これはアメリカのボーデン社、酪農や乳製品で有名な会社と提携していますが、このボーデン社の後継者です。皆さんにも何度かお話しました。彼は何とかイスラム教徒に伝道したいというのです。彼が行きたかったのは中国北西部でした。というのは、そこには１５００万人のイスラム教徒がいるのに一人の宣教師もいないのです。それを知ったとき彼は私をそこに遣わしてくださいと。彼は自分の財産に捉われず、その当時では考えられないほどの金額をキリストの働きのために捧げています。彼はエジプトに渡って３ヶ月間イスラム教についての学びを始めました。その間もエジプトにあって福音を伝えるために一生懸命働きました。１２月に着いて４月に、わずか４ヶ月足らずで彼は天に召されたのです。優秀な一人の青年がそのように取られたのです。ところが、彼は大学１年のときこのようにノートに記していました。「主イエスさま、私は自分の人生に関しては手を引きます。あなたを私の心の王座に据えます、私を変えてください、聖めてください、あなたのみこころのままに私を用いてください。」と、この青年は７歳のときに「私は主に従って行く」と決心したのです。そして、彼はエジプトの地で主に召されて行きました。無駄な人生を送ったのでしょうか？いいえ、彼は主に用いていただいたのです。

アメリカインディアンに伝道したデビッド・ブレイナードという宣教師の話もしました。彼は２５歳でアメリカインディアンに伝道しようとしました。彼は幼くして両親を失っており、引継いだ遺産は全部、一人の伝道者を育てるために使いました。彼は出て行ってインディアンたちに福音を伝えるのですが、彼らは非常に気性が荒くどんなに酷いことも平然と行なう人たちでした。そこに出て行って彼は通訳を雇って一生懸命福音を伝えました。しかし、この通訳はクリスチャンではなかったので快く通訳をしてくれません。その困難の中で彼は祈り続け福音を伝え続けたのです。彼は病弱な体質でした。ことに肺を患っていたので、彼は度々血を吐きながら、その状態で彼は馬に乗って道なき荒野や山を通って

インディアンの人々に伝道して行ったのです。どんなときでも彼の心はいかにしてもインディアンの人々を十字架の救いへと導きたい愛で燃え上がっていました。時には雪の降る夜中に雪の上にひざまずいて血を吐きながら汗だくになって祈ったのです。あるときは、ものを言う気力さえも失くして衰弱しながらインディアンの間を行き巡りイエス･キリストを宣べ伝えたのです。彼は伝道してからわずか４，５年の間に弱り果て衰弱の極みに達していたのですが、反対に、彼のたましいはますます恵みに満たされ、病床にあっても賛美と感謝にあふれていたのです。２５歳で伝道を始め２９歳で召されました。わずか４年間です。ところが彼はこのように記しています。「この地上で神のためにわずかではあるが何かをすることができたと考えることは、私にとって大きな慰めです。それは本当に小さなことでしたが、その少しのことを私はしたのです。しかし、神のためにさらに多くのことをしなかったことを私は悔やんでいます。」。神が私を世に遣わしてくださったということを知って、この世に出て行ったのです。一人でも失われたたましいが救われるなら、一人でも多くの人がイエスを信じて救いにあずかるならと。このような信仰の勇者がいます。もう一人だけ紹介します。

アフリカの一人の老人のことです。ある宣教師がアフリカの奥地をトラックで走っていたときに、一人のぼろぎれを身にまとった老人に呼び止められたのです。宣教師は多分彼はどこかに連れて行ってほしいのだろう、だから、トラックに乗りたいのだろうと思いました。ところが、その老人は運転席にやせてしわだらけの手を伸ばして、１００円ほどのお金を差し出して言うのです。先生、これは私の献金です、主に捧げてくださいと。この人はバラという名でした。ある時、宣教師がトラックを走らせていると、道端にそのバラを見かけたのです。彼の目は黄褐色で顔は腫れ上がり、足もむくみ呼吸も絶え絶えでした。バラはこのように言いました。宣教団体に連れて行ってください、そこで私は最期を迎えたいのですと。宣教師は彼を病院に運び絶対安静のサインがかけられました。数日後、宣教師がお見舞いに行くと、彼はベッドのそばによろよろと立って自分に為された神の恵みを人々に話していたのです。彼はこう言いました。「私はこの世の何ものも欲しくない。私は今苦しんでいるが、この苦しみは長くは続かない。私は私の救い主にもうすぐお会いする。私は一つのことを待ち望んでいる。それは天国で私の神さまにお会いすること、私はただイエスさまを待っている。」と。この二日後に彼は召されたのです。

このように人々は自分がこの世に遣わされていることを確信して、主のわざを為したのです。いかがですか、皆さん。この約束はある特別な人にだけ与えられたものではありません。この約束はあなたに与えられたのです。神はあなたを選んでくださった、神の目的のために用いるために。そして、神はあなたをこの世に遣わしてくださっています。その主を証しておられますか？このすばらしいあなたの救い主をあなたはことばをもって生き方をもって証していますか？人々はどのような主をあなたを通して見ていますか？あなたははっきりと人々に主を証していますか？主は**「あなたがわたしを世に遣わされたように、わたしも彼らを世に遣わしました。」**と言われました。今日をどのように生きるのか、それはあなたが決めなければいけないのです。でも、神は何を期待しておられるのか、それを聞いたあなたはそれに従って行くのかどうかです。主の証人として出て行ってください。それがイエス･キリストがあなたのためにいのちを捨て、あなたを生かし、今日を与えてくださった理由だからです。